

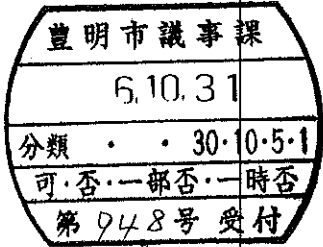
豊明市議会議長 殿

研修会・講演会等参加報告書

議員名 岡島 ゆみこ

令和6年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日 付	研修先	研修項目及び成果等
令和6年10月9日 ～ 10月10日	岩手県 盛岡市 「トーサイクラシ ックホール岩手」 (岩手県民会館)	第19回 全国市議会議長会研究フォーラム 1日目 ・基調講演 「人口減少社会における地域の未来 図」 ・パネルディスカッション 「地方議会の課題と主権者教育」 2日目 ・課題討議 「主権者教育の取組報告」 別添：報告書



(注) 別紙添付も可能とします。
(注) 本報告書は5年間公開します。

2024年視察報告書

会派清和

第19回

全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡

レポート

岡島ゆみこ

●主権者教育の新たな展開

日時：令和6年10月9日（水）・10日（木）

13：00～ 9：00～

場所：トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

令和6年10月作成

第1日目

パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」

【コーディネーター】

井柳 美紀 氏 [静岡大学人文社会科学部法学科教授]

【パネリスト】

土山 希美枝 氏 [法政大学法学部教授]

越智 大貴 氏 [一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事]

渡辺 嘉久 氏 [読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局]

遠藤 政幸 氏 [盛岡市議会議長]

第2日目

課題討論「主権者教育の取組報告」

【コーディネーター】

河村 和徳 氏 [東北大学大学院情報科学研究科准教授]

【事例報告者】

白鳥 敏明 氏 [伊那市議会前議長]

諸岡 覚 氏 [四日市市議会議員（第83代議長）]

服部 香代 氏 [山鹿市議会議長]

井柳氏（コーディネーター）

「主権者教育の新たな展開」

議長会による主権者教育の推進

○地方議会の課題

- ・投票率の低下
- ・無投票当選の増加
- ・議員の性別や年齢構成の偏りなど

○議会に対する関心を高め理解を深める主権者教育を一層推進する事

○出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に
対する支援を講ずること
などを基に問題提起をした。

統一選挙の推移

投票率 第2回昭和26年がピークで前年まで減少の一途

競争率 令和5年 無投票率 町村選挙 56%

首長選挙 28.4%

道府県議選挙 25%

市議 3.6%

町村議 30.3%

教育基本法（昭和22年）良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。から文科省通知「高等学校における政治的教養と政治的活動について」（昭和44年）では、「現実の具体的な政治的事象には、教師自身も教材としてじゅうぶん理解し、消化して客観的に取り扱うことに困難なものがあり、ともすれば教師の個人的な主義主張がはいりこむおそれがあるので、慎重に取り扱うこと。」としていたものが、平成27年では、「現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有する者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」と変わってきた。ことなどを紹介し、主権者教育の重要性と必要性を提議した。

これを受けて土山氏が「『誰がための主権者教育』か」をテーマに市民と議会の間にあるもの、若者と社会の間にあるもの。議会は主権者教育の「主体」か。議会と子ども・若者たち・教育機関との関係のなかでの「主権者教育という機能」などのデータを基に議会は何をなすべきかなど語った。

そのうえで、「議会」が「主権者教育」していると称するのをやめませんかと提議した。また、高校生議会を主権者教育と議会が称するのは、教育を軽くみていないか。

高校側が議会という「場」を使って、教育の一環として効果を高める機会として活用するのは有効だとしつつも、「主権者教育」という表現にも違和感があるとし、シチズンシップ教育、市民性教育、政治教育ではなく「主権者」教育なのかを指摘した。

若き市民の声をどのように受け止め、政策に活かすのか、議会には応答する責任があり、その対応が若き市民の政治や議会に対する信頼に直結する。教育の機会として生かしたい高校側と若き市民の参加を実りあるものにしたい議会側との連携や調整も必要。形式的でない意見交換、市民と議会が学びあうことをするにも労力はかかるが、高校、議会、若き市民に価値のある機会にするために労力をかける価値があると語った。

越智氏

「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」

日本財団が実施する「18歳意識調査2024」のデータ結果を基に

- ① 政治に関心が特別低いわけではない。
- ② 自分で国や社会を変えられると思っていない。
- ③ 社会のために役立ちたいとそこそこ思っている。

と、以上の事から、

政治に関心がない から選挙に行かない というよりも、
どうせ変わらない から選挙に行かない という事がわかる。
一方で、 社会のために役立ちたい とも思っていると位置付けた。

13年間の主権者教育の取組「よのなかをおもしろく学びあう、みんなで創る！その活動の「カギ」と「パーソン」について」を実施している。

○WE CITY：こどものまち 仮想のよのなかづくり

商店やカフェ→金融・消費者教育

税務署→租税教育 裁判所→法・権利教育

ハローワーク→労働者の教育 学校・大学→スキルアップ

教育費や社会保障は入場時に実施する（選挙で決定）

○こどもワークショップ：こどもの意見表明

○こども議会：議員との交流会

取組の中で、若者は関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。そのために議会の役割とは交流の機会を増やす必要がある。

学校現場における主権者教育の現状は政治的中立への過度な配慮があるが、学校が悪いわけではないとし、議会の役割として学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境を作る。主権者教育は「教育」であり「イベント」ではない。

13年間の主権者教育の取組について、政治“家”との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響する。そのために1回でも議員との交流機会をつくっていききたいと意気込みを語った。

渡辺氏は50年後の学校を人口減少社会と照らし合わせ生徒数も減少、授業料収入も減少をどう賄っていくかを政治と未来をつなぎ、考えていくことの大切さを語った。

遠藤氏は「盛岡市議会の取組」を紹介。

高校生議会の開催。時代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めることを目的とした。

- ・盛岡市議会として主権者教育に取り組むものであること。
- ・議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること。
- ・議員が高校生と直接交流する場であること

市議会が大学に「おでかけ」し、学生と意見交換を行う事業を行った。結果、市政に関心を持った。議会の役割が理解できたとの参加者の声。

2日目

課題討論「主権者教育の取組報告」

地方議会と主権者教育

コーディネーターの河村准教授から主権者教育の理想と現実のギャップの指摘。

- | | |
|----|---|
| 理想 | ・主権者教育は基本的にシチズンシップ教育であるべき |
| | ・地域の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべき |
| | ・社会には多様な意見があり、多様な意見があることを理解する |
| 現実 | ・知識の享受（制度の理解）が中心、正解を教えようとする |

- ・投票者十四（模擬投票）の教育
- ・実施の主体が「公（教育委員会、選挙管理委員会）」連携の不十分さがあるうえで、3市の市議会が取組事業を紹介

伊那市議会では「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」平成30年に無投票となったことにより、「魅力ある議会づくり検討会」を設置。議会への関心を高めるための方策として、若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定。実施。

感想として議員、高校生共々良い機会だとし、今後も行っていきたい。徐々に慣れ意見が言えるようになり、伊那市のことを知る事や、議員に話を聞いてもらえた。と好感触であった。

意見交換を契機に高校生の意識の高まりにより、請願の提出をされるなど参加意識の高まりが見えた。

四日市市議会

2014年議会改革をするも投票率は上がらなかった。

「ワイ！ワイ！GIKAI」を令和4年11月に開催。

各常任委員会が地域の高校、大学に出向いてテーマを基に意見交換会を開催事例として議会が学校に働きかけ開催

中学校を対象とし、校長役員会で企画を説明、開催校を決定。

グループを作り、それぞれテーマについてグループディスカッションを行いその内容と感想を発表。

開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問。生徒は本会議一般質問を傍聴

「よっかいち市議会だより #こども号」の発行

山鹿市議会

「山鹿議会が取り組んだシチズンシップ教室」

山鹿市議会の課題 開かれた議会、住民の理解と関心、なり手不足にならないための小学校でシチズンシップ教室を開催。

- ・市議会について知る
- ・議員の仕事を理解する
- ・選挙の意義や、投票の大切さがわかる

絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」で議会を議員の仕事を子どもたちに理

解を深めて知ってもらおう。

子どもたちの感想から議会への理解がすすんだとの反応があり、議会、市民（ボランティア）、図書館など波及効果が大きかったとの報告

所感

2日間のディスカッションと課題討議で、土山氏の「主権者教育の主体は学校教育委員会であり、議会はその主体や学生とどう連携するかであるから、「議会」が「主権者教育」をするのをやめませんか」の意見に共感した。

すべてはここから始まる。

小学生から高校生へとなる中で、児童会、生徒会で自分の1票がどうなるかを実感する。その延長に政治があるという事を学校の中で学ぶ、体験することが大切である。その上で、議会へのつながりがさらに理解を深めていくこととなる。人口増加の40年余、2008年より減少の一途。経験がないことだけに想像も難しい。一つ一つが日々の生活、政治、経済とつながっていることを学ぶことにより、主権者としての意識が芽生えるのではないか。

そして議会はなにをすべきかを一緒にになり考えていかなければならない。議員一人一人が、議員としてだけでなく、社会の一員として社会人から乖離してはならないことが大切だと感じた。

